

令和3年9月29日

学生 各位

副学長（教育担当） 宮 下 俊 也

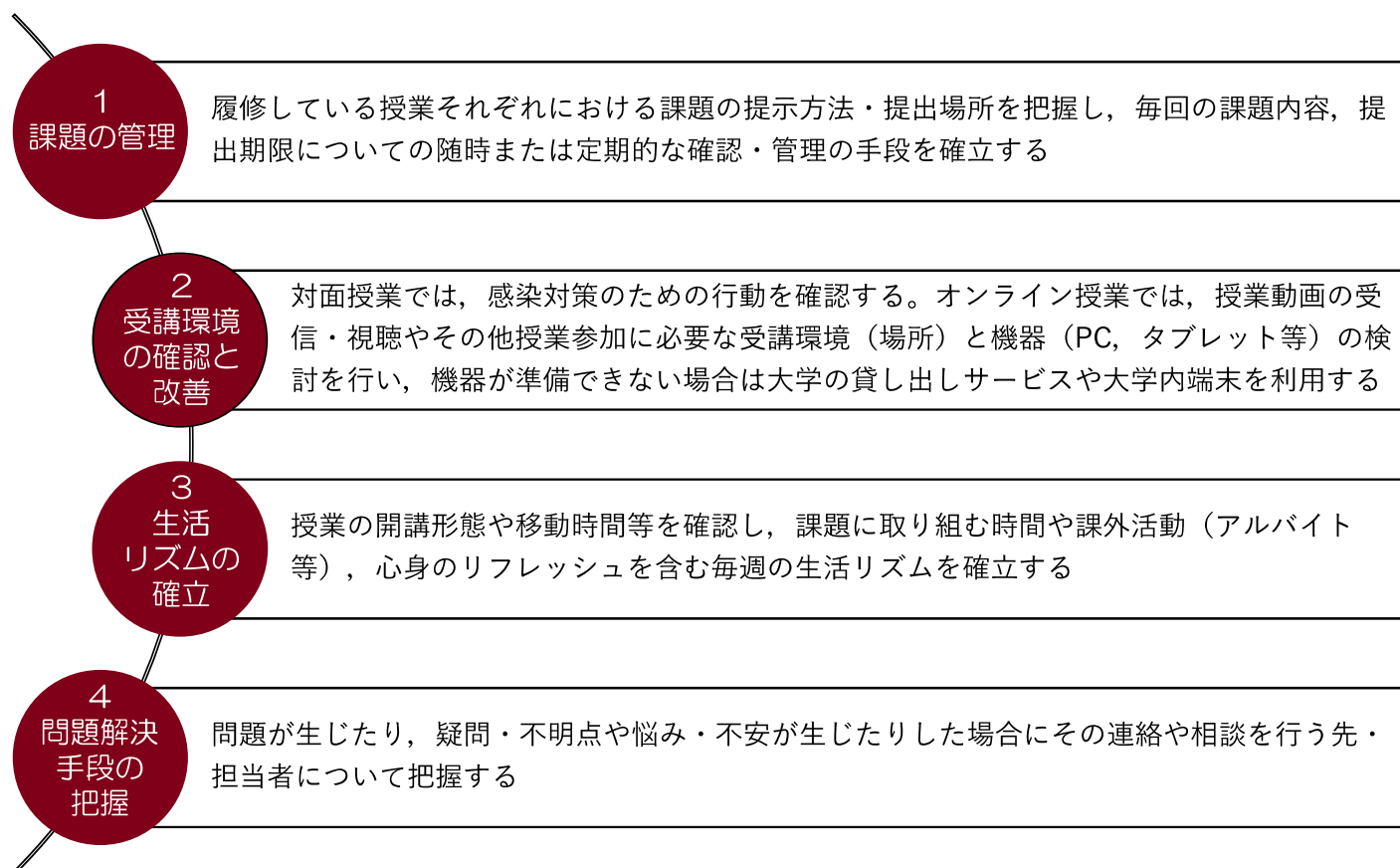
令和3年度後期授業準備・実施ガイドラインについて

令和3年度後期の授業に向けて、授業準備・実施ガイドラインを改定しましたので、お知らせします。

コロナ禍が長期化している中、学生皆さんの学修活動がより充実したものになるよう、本ガイドラインに示す授業を受講する際のポイントや、問題解決のための手段を参考の上、授業の準備をするようにしてください。

後期授業準備・実施ガイドライン（学生版）

令和3年度後期の学修活動充実にむけて



授業に関する情報の提示場所

1. 学務情報掲示板 <https://www.nara-edu.ac.jp/PRIVATE/KYOUUMU/gakumuindex.htm>
(メール配信もされますので、毎日メールチェックする習慣を必ずもってください。メール配信元は、noreply@morganite.nara-edu.ac.jpです。一気に確認したい場合は、学務情報システムからログインして確認します。学内サイトのためVPNによる接続が必要です。)
2. 奈良教育大学 授業・学生生活に関するポータル 在学生用
https://jisedai.nara-edu.ac.jp/open/netcommons/htdocs/?page_id=771
(大学公式Webサイト、学務情報掲示板などで提供された情報を集約しています。すべての情報が提供元と同時に掲載されるわけではありませんのでご注意ください。授業で用いられる各システムの基本的な使い方についての解説ページもあります。)



様々な悩みの解決、情報交換の場

遠隔での学生生活に関する総合窓口 <https://elearn.nara-edu.ac.jp/course/view.php?id=215>
(教務課、学生支援課、学生相談室、図書館など各所への窓口となっています。)



学生生活何でも相談フォーム <https://forms.office.com/r/0GMpAJ3iih>
(どこに相談してよいのかわからない内容の相談窓口としてご活用ください。)



1. 課題の管理

授業によって課題の提示方法、提出場所、期限等の設定され方は異なります。統一してほしいという意見も聞かれますが、各システムの機能・目的の違い（※1）や教員によって使用しやすい（＝課題の授受にミスが起こりにくい）システムが異なることから、利用するシステムが一元化することはありません。授業によってはシステムを使わずメールや郵送での課題のやりとりが求められることもあります。

複数の課題提示／提出方法が並行的に用いられることを前提として、以下のポイントごとに的確に課題管理していく手段を確立していきましょう。

ポイント1 授業ごとの講義実施、課題の提示・回収の方法を的確に把握する

手段の例：受講している全授業の課題についての情報をまとめた資料を作成するなどして、再確認しやすいようにしておく

ポイント2 システムごとに課題や課題の提出期限の確認方法を決めておく

手段の例：全学ポートフォリオでは「授業の課題を提出する」から、Moodleでは「ダッシュボード（※2）」から、課題と課題の提出期限を一覧表示して確認する
：メールで課題が出されたり、課題に関する連絡事項が送られて来ていないか、メールは一日に一度はチェックする

ポイント3 出されている課題を一覧し、実施状況を確認する方法を決めておく

手段の例：スマホの予定管理アプリやメモ帳機能を使ってTo Doリストを作成する

※1 例えば全学ポートフォリオは「個人の学習記録を蓄積する」ことを目的に、Moodleは「授業での諸活動（資料配布、課題提示、課題の提出と受け取りなど）を他の受講者とともにインターネット上で共有する」ことを目的に開発されたシステム（コースマネジメントシステム）です。いずれの目的を重視するかによって授業で採用するシステムは必ずと異なってきます。

※2 Moodleは「ダッシュボード」を有効活用することで、課題管理がやりやすくなります。全授業のMoodleコースが作成されるため、Moodleを利用しない授業のものも一覧に出てきてしまっていますが、ダッシュボードでは非表示設定が可能です。

2. 受講環境の確認と改善

オンライン（リアルタイム、オンデマンド）の授業ではかなりのデータ容量を消費しますし、データ配信の授業とは言え資料をプリンターで印刷するように指定される授業もあります。各授業の展開についてシラバスや授業担当教員の説明を確認し、学習環境に不十分な点があれば、改善を検討してください。

自分で自宅にWi-Fiを用意したり、プリンターを購入したり（またはコンビニの出力サービスを使ったり）といった対応も考えられますが、大学内で無料Wi-Fiや情報館の管理する端末室でPCが利用できたり、貸し出し用のPCやタブレットを一定期間借りられたりもします。また、学内の共用プリンターでは年間700枚まで無料で資料を印刷することが可能ですし、教員からの依頼があれば教務課から資料を郵送してもらうことも可能です。

令和3年度後期は、原則非対面授業ですが、実験・実習等の対面授業も開講されます。そのため、大学でオンライン授業を受講せざるを得ないという状況が生じます。環境が整わないと、課題実施に時間がかかるなどの支障も出てきますので、履修科目全体を見渡ししながら、自分自身に必要な受講環境やその整え方について考えるようにしてください。また、対面授業では、何より感染対策が重要となります。授業中、授業時間外（昼食時など）とも、大学（授業担当教員）や国の指針に従って、最大限の対策を講じてください。

シラバスの情報や、多くの授業で初回に実施されるオリエンテーションは、その授業の受講に必要な環境を確認するための重要な機会となります。担当教員が説明しないことは、皆さんから積極的に確認して、快適に授業を受けられるようにしてください。また、どうしても環境が整えられない場合には、その旨相談するようにしてください。相談は教務課やWeb上の相談窓口でも受け付けますので、相談しやすい手段を使ってできるだけ早い対応をするようにしましょう。

手段1 自分自身で可能な限りの環境改善を図る

（自宅にWi-Fi環境を整える、プリンターを購入する、感染対策のための行動を確認する等）

手段2 大学からの貸し出しや支援を受けることを検討・相談する

（大学のPCやタブレットの貸与を受ける、大学の端末室を利用する等）

手段3 授業担当教員などに必要な環境を確認し、環境が整わない場合には配慮・対応を求める

（担当教員に必要な受講環境について確認する、環境に関する不安について担当教員や教務課やWeb上の相談窓口（→4）に相談する等）

3. 生活リズムの確立

対面の授業と非対面の授業がともに展開されると、受講に必要な場所や準備物が授業によってころころ変わります。必要な受講環境によって、移動のタイミングも計画しなければなりません。生活の中には、授業だけでなく、課題実施や課外活動も含まれます。変化の多い日常に振り回されないよう、全体を見渡して行動を計画し、生活のリズムを作っておくことが重要です。非対面授業の多い人は同じ机の前で座りっぱなしになり、健康を害しやすくなります。必要に応じて、体を動かしてリフレッシュする時間もスケジュールに組み込むようにしましょう。

課題量が多いことによる時間・精神的な負担を感じている人は相変わらず多いです。大学の単位制度には、「一単位の授業科目を四十五時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準（とする）」という記載があり、2単位の授業では1週間当たり授業時間を含めて6時間の学習を要する（授業時間を2時間と計算しても、4時間の授業外学習時間を要する）ことが規定されており、教員側としては大学授業としての基準を考慮して課題設定をしているという側面があります（授業評価アンケートの分析結果では、皆さんの学修時間はほとんどの範囲内に収まっています）。しかし、多くの履修科目のある人は、全部の授業で出される多くの課題に頑張り切れないという状況になりかねないことも理解しています。皆さんの実態は教員間でも共有しており、必要な改善は引き続き行っていきたいと思います。ただし、「経済的に困窮しアルバイトを増やさねばならないため課題実施が大変」といった理由から課題量の配慮をするということは難しいです。このような状況の人は別の手段で問題解決ができないか、まずは相談してみてください。

ポイント1 授業ごとに必要な受講環境や課題の状況、課外活動などから一週間のおおよそのスケジュールを立てる

手段の例：一週間の行動スケジュールを作成する

ポイント2 非対面授業が多い場合、運動やリフレッシュのためのタイミング・方法を決めておく

手段の例：授業時間の終了時刻に合わせて外の景色を見たり軽い運動をしたりする、
：空き時間に好きな音楽や食べ物を楽しむなど、リフレッシュのための手段をもつ

ポイント3 スケジュールをこなせない個人的事情が生じたら、まずは相談する

手段の例：担当教員に課題提出遅延の相談をする
：学生支援課に経済的支援の可能性がないかを相談する

4. 問題解決手段の把握

なるだけ周囲の人と交流しないように、とされている昨今の状況は、「自然な問題解決」をととてもやりにくくしています。本来なら休み時間や授業開始前のちょっとした雑談の中で課題の存在や取り組み方に関する情報を入手できる人が多いと思いますが、コロナ禍の今、情報の獲得や悩みの解決は誰にとっても難しいものとなっています。

このような状況のなか皆さんが順調に学びを進めていけるよう、大学ではいくつかの問題解決手段を用意しています。以下に主な手段をまとめておきますので、困ったときは利用してください。

手段1 授業担当教員や担当窓口（教務課、学生支援課、図書館等）に相談する

例：授業担当教員に相談する（問題が特定の授業のみで生じている場合）
：担当窓口相談する（多くの授業で同じ問題が生じており、窓口がわかる場合）
：図書館に相談する（レポート執筆、文献の探し方等について）

手段2 学年担当教員に相談する

例：学年担当に相談する（所属専修での学びに関わる問題）

手段3 学生相談室（<https://www.nara-edu.ac.jp/HOKENKANRI/counseling.html>）に相談する

例：学生相談室（心理的な問題がある時、自分自身を見つめたい時等）

手段4 「学生生活何でも相談フォーム」（Forms）で送信する

例：どこに相談したらいいのか皆目見当もつかない、見当はついているけれどもそこに相談することがなかなかできないといった場合（本資料1ページ参照）